



原点である香川大学に 恩返ししたい。

競泳競技を続けてきた私にとって転換点となったのが、香川大学の水泳部です。それまで通っていたスイミングスクールではコーチが作った練習メニューに従っていましたが、大学にはコーチがいないため、自分でメニューを組み立てなければなりません。最初は戸惑いましたが、「どうすれば自己ベストを更新できるか」と能動的に考えながら、練習するようになりました。その結果、1年生で出場した大会でさっそく自己ベストを更新。「この方法で間違っていない」という確信を得ました。

水泳がチーム競技であることも学びました。大学水泳では、個人種目やリレーで得たポイントを合計して順位を競います。そのため、部内では常に大会を意識し、互いに励まし合いながら練習に励みます。4年生のとき、チーム一丸で臨

んだ中四国のインカレ水泳で総合3位になったときの喜びは、今でも忘れられません。

就職先に香川大学を選んだのは、職員の皆さんが楽しそうに学生と接する姿を見てきたからです。大学の職員を目指すならば母校しかないと考え、単願で応募しました。現在は共創人材養成グループに所属し、キャリア支援を担当しています。インターンシップに参加したという学生と、学生を受け入れてくださる企業の橋渡しをする役割です。事務と聞くと堅苦しいイメージがありますが、クリエイティブな面も多くあります。最近では、内定が決まった4年生が3年生にアドバイスするオンライン相談会を開催しました。「コロナ禍で先輩に相談する機会がなかったので、ありがたかった」と書かれたアンケートを目にしたときに

は、とても嬉しかったですね。次は、対面とオンラインを組み合わせた公務員採用試験の説明会を計画中です。仕事でも積極的に立案できるのは、水泳部で身につけた主体性のおかげ。「良いと思ったことには、どんどんチャレンジしよう」と言ってくれる上司の後押しもあり、日々やりがいを感じています。

競泳競技は現在も続けています。昨年は日本選手権に出場し、そこで、香川県記録を更新し、決勝に進出しました。次の目標は、4月のオリンピック選考会で決勝に出場すること。仕事と両立しながら、大学の知名度アップに貢献したいです。もちろん、仕事の経験もたくさん積みたい。いつかは「中村にお願いしたい」と言ってもらえるような頼りがいのある職員になれたらと思います。

水泳部で学んだ「主体性」が、
仕事にも生きている。



中村 優介

OB 2017年 教育学部卒

香川県出身。小学5年生から本格的に水泳を始める。香川大学教育学部に入學し、保健体育科研究室で水泳の研究に打ち込む。水泳部ではキャプテンを務め、ワールドカップやジャパンオープンなどの大会で入賞を果たす。筑波大学大学院を経て、2020年から香川大学の職員に。